

現場の 声

一次救急医療を支える田原市医師会と二次救急医療を支える渥美病院。それぞれの立場で、本市の救急医療について語っていただきました。

田原市医師会副会長(ふれあいばし診療所院長) 荒木信泰医師

Q.一次救急とはどのような医療ですか？

A. 応急処置が主な治療で、翌日まで症状を抑え、専門医につなぐ処置です。

Q.在宅当番医制があつてよかったと感じるときは？

A. 自分の患者さんが、休日に他の当番医の先生に助けてもらったことを聞くと、在宅当番医制があつてよかったと思いますね。

Q.一次救急を維持していくためには？

A. 医療技術の発達により、治る病気が増え、医療現場は忙しくなるば

かりです。皆さんも、病気になれば病院に行けばよいと思うのではなく、まずは自分の健康管理をしっかりと行いましょう。万が一病気になっても、慌てず様子を見ることも時には必要だと思います。昔からいわれているように、風邪のときは、温かいおかゆを食べ、体を温めて汗をかくなど自分で対処できることをまずはやってみてください。

ただ、昼間我慢していて、夜になって在宅当番医に飛び込むのはやめましょう。調子が悪ければ、できるだけ昼間のうちにかかりつけ医に相談してくださいね。



▲「冬場はとても忙しく、スタッフの健康状態も心配です」と話す荒木先生

渥美病院副院長兼整形外科部長(外来救急運営委員長) 市川恒信医師



▲「正しい診断ができ、きちんと治療し完治できたときはやはりうれしいですね」と話す市川先生

Q.二次救急とはどのような医療ですか？

A. 一次救急である在宅当番医が空いていないときに救急医療を行うのが二次救急。また、一次救急では診れないケースを診るのも二次救急の仕事です。

Q.二次救急医療で大変なことは？

A. 当直で救急医療に従事していると、専門外の患者さんを診なければならぬのは大変です。たとえ、専門分野の患者さんでも、その時間帯は救急の医師が対処するので、専門的な治療はできません。

緊急性がないかどうか判断するのが救急の医師の仕事です。患者さんは、専門的な治療が受けたくて来る方がいるので、この点を理解してもらうのに苦労しますね。

Q.これからの救急医療は？

A. 救急医療を維持していくには、まずは医師不足の解消が必要です。そこが改善されなければ、元も子もない話になりますが、一次から三次までの各救急医療がちゃんと役割分担できているのが理想です。また、それを市民の方に理解していただくことが一番大切です。